

# 第1講

# ベクトル(1) 平面上のベクトルと演算

## 基礎学習

### 1 ベクトルの意味

線分の長さ、図形の面積、物体の質量などは、1つの数値(大きさ)で表すことができる。

これに対して、いろいろな量の中には、大きさのほかに向きをもつものがある。例えば、天気予報などで見る「西の風、風力3」や、点をx軸方向に3だけ平行移動するなどのように、大きさと向きをもつものがある。このような量の表し方を定義する。

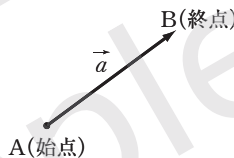
線分ABについて、AからBに向かうという向きを考えたものを

①  ABといい、Aを始点、Bを②  という。

①  について、位置を問題にせず、大きさと③  だけを考えたものをベクトルという。

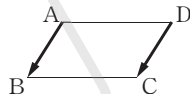
ベクトルは、右図のように矢印のついた線分を用いて表すことができ、 $\overrightarrow{AB}$ ,  $\vec{a}$  のように書く。

このとき、線分ABの長さをそのベクトルの大きさといい、 $|\overrightarrow{AB}|$ ,  $|\vec{a}|$  のように表す。



### ↔ 有向線分とベクトル

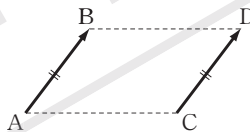
下図の平行四辺形ABCDで、有向線分ABと有向線分DCはベクトルとしては同じものである。



### 2 ベクトルの相等

向きが同じで、大きさが等しい2つのベクトルは等しいという。ベクトルが等しいことを $\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{CD}$  のように表す。

また、2つのベクトル $\vec{a}$ と $\vec{b}$ が等しいことを $\vec{a} = \vec{b}$ と表す。



### ↔ ベクトルの相等

ベクトル $\overrightarrow{AB}$ を平行移動して $\overrightarrow{CD}$ に重ね合わせるることができる。

$$\Leftrightarrow \overrightarrow{AB} = \overrightarrow{CD}$$

(4点A, B, C, Dが一直線上にないときは、平行四辺形ABDCを作る。)

### 3 ベクトルの加法

2つのベクトル $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$ に対して、 $\vec{a} = \overrightarrow{AB}$ ,  $\vec{b} = \overrightarrow{BC}$  とするとき、ベクトル $\overrightarrow{AC}$ を $\vec{a}$ と $\vec{b}$ の和といい、 $\vec{a} + \vec{b}$ と表す。すなわち

$$\overrightarrow{AB} + \text{④ } \overrightarrow{BC} = \overrightarrow{AC}$$

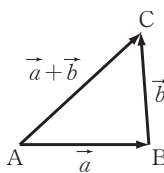
である。

ベクトルの加法について、次の法則が成り立つ。

(1) 交換法則:  $\vec{a} + \vec{b} = \text{⑤ } \vec{b} + \vec{a}$

(2) 結合法則:  $(\vec{a} + \vec{b}) + \vec{c} = \vec{a} + (\vec{b} + \text{⑥ } \vec{c})$

例  $\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{BC} + \overrightarrow{CD} = \text{⑦ } \overrightarrow{AC} + \text{⑧ } \overrightarrow{CD}$



### ↔ ベクトルの加法

$$\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{BC} = \overrightarrow{AC}$$

終点  $\overbrace{\quad\quad}^{\text{同じ}}$  始点

↔ ベクトルについて、数や文字式の加法と同様に計算ができる。

↔ 結合法則が成り立つので、( )をつけずに $\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}$ と表記する。

**例題1** [ベクトルの意味] →1

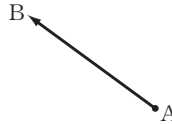
次の **解答** の  にあてはまることばや記号を入れよ。

**解答**

速度や力のように  ① と向きをもつものをベクトルという。

右図のように、有向線分ABで表されるベクトルは、 ② と表し、点Aを  ③，点Bを  ④ という。

また、ベクトル  $\overrightarrow{AB}$  の大きさを  ⑤ と表す。



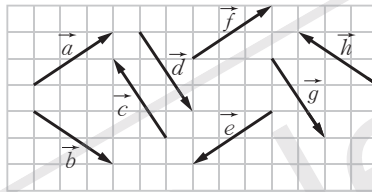
**類題1** 次の  にあてはまることばを入れよ。

ベクトルとは  ア と  イ をもつものをいう。  ウ

して重ねることができるベクトルは等しい。

**例題2** [ベクトルの相等] →2

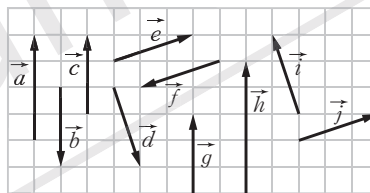
右図のベクトルのうち、等しいベクトルの組をすべて答えよ。



**解答**

向きが同じで大きさが等しい2つのベクトルは等しい。等しいベクトルは、 $\vec{a}$  と  ⑥，  ⑦ と  $\vec{g}$

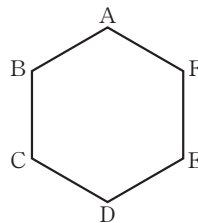
**類題2** 右図のベクトルのうち、等しいベクトルの組をすべて答えよ。



**例題3** [ベクトルの加法] →3

右図の正六角形ABCDEFにおいて、次のベクトルを1つのベクトルで表せ。

- (1)  $\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{BD}$
- (2)  $\overrightarrow{AC} + \overrightarrow{BF}$



**解答**

(1)  $\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{BD} =$   ⑧

(2)  $\overrightarrow{BF} =$   ⑨ であるから、 $\overrightarrow{AC} + \overrightarrow{BF} = \overrightarrow{AC} +$   ⑨  $=$   ⑩

**類題3** 例題3の正六角形ABCDEFにおいて、次のベクトルを1つのベクトルで表せ。

- (1)  $\overrightarrow{AD} + \overrightarrow{DC}$
- (2)  $\overrightarrow{AF} + \overrightarrow{EC}$

**ヒント**

↔ 有向線分

線分ABでAからBに向かうという向きを考えるもの。

有向線分では位置を区別するが、ベクトルでは平行移動して重なるものは等しいと考える。

**例題1の答**

- 1 大きさ
- 2  $\overrightarrow{AB}$
- 3 始点
- 4 終点
- 5  $|\overrightarrow{AB}|$

**例題2の答**

- 6  $\vec{f}$
- 7  $\vec{d}$

↔ ベクトルの加法

$\overrightarrow{AO} + \overrightarrow{OB}$  のときは  
同じ点

$\overrightarrow{AB}$  となる。

$\overrightarrow{AO} + \overrightarrow{\Delta B}$  のときは  
異なる点

$\overrightarrow{AO}$  の終点が  $\Delta$

または、 $\overrightarrow{\Delta B}$  の始点が  $\circ$  となるように平行移動する。

**例題3の答**

- 8  $\overrightarrow{AD}$
- 9  $\overrightarrow{CE}$
- 10  $\overrightarrow{AE}$  ( $\overrightarrow{BD}$ )

#### 4 単位ベクトルと零ベクトル

大きさが1であるベクトルを単位ベクトルという。

すなわち、 $\overrightarrow{AB}$ が単位ベクトルのとき、 $|\overrightarrow{AB}| = \text{①}$ である。

始点と終点一致したベクトルを零ベクトルといい、記号 $\vec{0}$ で表す。すなわち、 $\overrightarrow{AA} = \text{②}$

零ベクトルの大きさは $\text{③}$ で、向きは考えない。

また、ベクトル $\vec{a}$ に対して、 $\vec{a} + \vec{0} = \vec{0} + \vec{a} = \text{④}$

#### ↔ 零ベクトル $\vec{0}$

数の0と同じような性質がある。

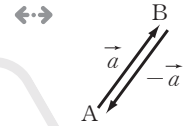
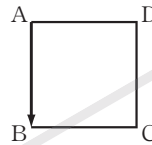
#### 5 逆ベクトル

ベクトル $\vec{a}$ と大きさが等しく、向きが反対であるベクトルを $\vec{a}$ の逆ベクトルといい、 $-\vec{a}$ で表す。すなわち、

$-\overrightarrow{AB} = \text{⑤}$ である。

また、ベクトル $\vec{a}$ に対して、 $\vec{a} + (-\vec{a}) = \vec{0}$

例 右図の正方形ABCDにおいて、ベクトル $\overrightarrow{AB}$ の逆ベクトルは、 $\overrightarrow{BA}$ と $\text{⑥}$

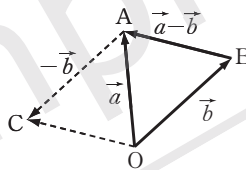


#### 6 ベクトルの減法

2つのベクトル $\vec{a}$ 、 $\vec{b}$ に対して、 $\vec{a}$ に $\vec{b}$ の逆ベクトル $-\vec{b}$ を加えたベクトル $\vec{a} + (-\vec{b})$ を $\vec{a} - \vec{b}$ と表し、これを $\vec{a}$ から $\vec{b}$ を引いた差という。

例 右図で、 $\vec{a} - \vec{b} = \overrightarrow{OA} + \overrightarrow{BO} = \overrightarrow{OA} + \text{⑦}$   
 $= \overrightarrow{OC} = \text{⑧}$

よって、3点O, A, Bについて、 $\overrightarrow{OA} - \overrightarrow{OB} = \overrightarrow{BA}$



#### ↔ ベクトルの減法

$$\overrightarrow{OA} - \overrightarrow{OB} = \overrightarrow{BA}$$

↑ ↑  
同じ

$$\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OA}$$

↑ ↑  
同じ

#### 7 ベクトルの実数倍

ベクトル $\vec{a}$ と実数 $k$ に対して、 $k\vec{a}$ を次のようなベクトルと定める。

$\vec{a} \neq \vec{0}$ のとき

- (1)  $k > 0$ のとき、 $\vec{a}$ と同じ向きで、大きさが $|\vec{a}|$ の $k$ 倍  
特に、 $k = 1$ のときは、 $k\vec{a} = \vec{a}$
- (2)  $k = 0$ のとき、 $\vec{0}$  (零ベクトル)
- (3)  $k < 0$ のとき、 $\vec{a}$ と反対の向きで、大きさが $|\vec{a}|$ の $-k$ 倍  
特に、 $k = -1$ のときは、 $k\vec{a} = -\vec{a}$

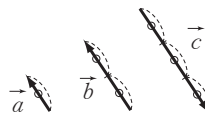
$\vec{a} = \vec{0}$ のとき

任意の実数 $k$ に対して、 $k\vec{0} = \vec{0}$ と定める。

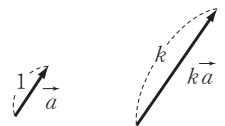
例 右図において、

$$\vec{b} = \text{⑨} \vec{a}, \vec{c} = \text{⑩} \vec{a}$$

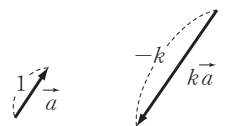
である。



#### ↔ $k > 0$ のとき



#### $k < 0$ のとき



- 解答 ① 1 ②  $\vec{0}$  ③ 0 ④  $\vec{a}$  ⑤  $\overrightarrow{BA}$  ⑥  $\overrightarrow{CD}$  ⑦  $\overrightarrow{AC}$  ⑧  $\overrightarrow{BA}$  ⑨ 2  
 ⑩ -3

**例題4** [単位ベクトルと零ベクトル] →4

次の【解答】の□にあてはまることばや記号を入れよ。

**解答**

- (1)  $|\overrightarrow{AB}|=1$  であるベクトル  $\overrightarrow{AB}$  を **1** ベクトルという。  
 (2)  $\vec{a}+\vec{x}=\vec{a}$  を満たすベクトル  $\vec{x}$  を **2** ベクトルといい、**3** で表す。

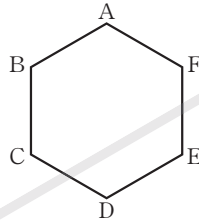
**類題4** 次の□にあてはまる数や記号を入れよ。

$\overrightarrow{AB}$  が単位ベクトルのとき、 $|\overrightarrow{AB}|=\square$ ア を満たす。  
 また、 $\vec{a}+\vec{0}=\vec{0}+\vec{a}=\square$ イ である。

**例題5** [逆ベクトル, ベクトルの減法] →5, 6

右図の正六角形 ABCDEF において、 $\overrightarrow{AB}=\vec{a}$ ,  
 $\overrightarrow{AF}=\vec{b}$  とするとき、次のベクトルを  $\vec{a}, \vec{b}$  を用いて表せ。

- (1)  $\overrightarrow{DE}$   
 (2)  $\overrightarrow{FB}$



**解答**

- (1)  $\overrightarrow{DE}=-\overrightarrow{ED}=-\overrightarrow{AB}=\square$ 4  
 (2)  $\overrightarrow{FB}=\overrightarrow{AB}-\square$ 5  $=\square$ 6

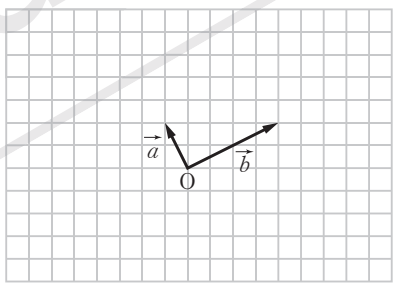
**類題5** 例題5の正六角形 ABCDEF において、 $\overrightarrow{AC}=\vec{a}$ ,  $\overrightarrow{AE}=\vec{b}$  とするとき、次のベクトルを  $\vec{a}, \vec{b}$  を用いて表せ。

- (1)  $\overrightarrow{DF}$  (2)  $\overrightarrow{BF}$

**例題6** [ベクトルの実数倍] →7

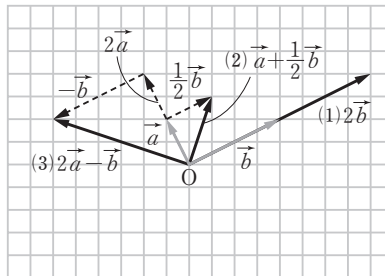
$\vec{a}, \vec{b}$  が右図のように与えられているとき、次のベクトルを点 O を始点として図示せよ。

- (1)  $2\vec{b}$   
 (2)  $\vec{a}+\frac{1}{2}\vec{b}$   
 (3)  $2\vec{a}-\vec{b}$



**解答**

- (1)  $\vec{b}$  と同じ向きで大きさが **7** 倍のベクトルを作る。  
 (2)  $\vec{a}$  の終点を始点として **8**  $\vec{b}$  を作り、その終点と点 O を結ぶ。  
 (3)  $2\vec{a}$  の終点を始点として  $-\vec{b}$  を作り、その終点と点 O を結ぶ。



**類題6** 例題6の図で、次のベクトルを点 O を始点として図示せよ。

- (1)  $-2\vec{a}$  (2)  $2\vec{a}+\vec{b}$  (3)  $\vec{a}-\frac{1}{2}\vec{b}$

**ヒント**

↔ 実数  $a, x$  について、 $a+x=a$  を満たす  $x=0$  に相当するベクトルが  $\vec{0}$  である。

すなわち  $\vec{a}+\vec{0}=\vec{a}$

である。

**例題4の答**

- 1 単位 2 零  
 3  $\vec{0}$

↔  $\overrightarrow{DE}=-\overrightarrow{ED}$

↔  $\overrightarrow{FB}=\overrightarrow{AB}-\overrightarrow{AF}$

**例題5の答**

- 4  $-\vec{a}$  5  $\overrightarrow{AF}$   
 6  $\vec{a}-\vec{b}$

**例題6の答**

- 7 2 8  $\frac{1}{2}$

## 8 ベクトルの演算

ベクトルの実数倍について、次の法則が成り立つ。

$k, l$  を実数とするとき

- (1)  $k(l\vec{a}) = (kl)\vec{a}$
- (2)  $(k+l)\vec{a} = k\vec{a} + l\vec{a}$
- (3)  $k(\vec{a} + \vec{b}) = k\vec{a} + k\vec{b}$

例  $2(-3\vec{a}) = \text{①} \vec{a}$

$2\vec{a} + 7\vec{a} = \text{②} \vec{a}$

$4(\vec{a} + \vec{b}) = \text{③} \vec{a} + \text{④} \vec{b}$

↔ ベクトルの計算は多項式の計算と同様に行える。

$k, l, a, b$  を実数とするとき

- (1)  $k(la) = (kl)a$
- (2)  $(k+l)a = ka + la$
- (3)  $k(a+b) = ka + kb$

## 9 ベクトルの平行

$\vec{0}$  でない2つのベクトル  $\vec{a}, \vec{b}$  が同じ向き、または反対の向きであるとき、 $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  は平行であるといい、 $\vec{a} // \vec{b}$  と表す。

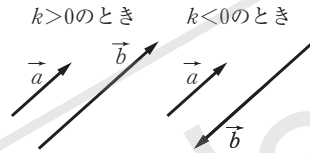
このとき、

$\vec{a} // \vec{b} \iff \vec{b} = k\vec{a}$  となる実数  $k$  がある

ここで、 $k > 0$  のときは  $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  が同じ向き、 $k < 0$  のときは  $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  が反対の向きになる。

例  $\vec{e}$  を単位ベクトルとするとき、 $\vec{e}$  と平行で大きさが2のベクトルは  $2\vec{e}$  と  $-2\vec{e}$  の2つがある。

例  $|\vec{a}| = 3$  のとき、 $\vec{a}$  と平行な単位ベクトルは  $\text{⑤} \vec{a}$  と  $-\text{⑤} \vec{a}$  の2つがある。



↔  $\vec{b} \neq \vec{0}$  なので  $k \neq 0$

↔  $2\vec{e}$  は  $\vec{e}$  と同じ向き、 $-2\vec{e}$  は  $\vec{e}$  と反対の向き。

↔  $\vec{a}$  と平行な単位ベクトルは、 $\pm \frac{1}{|\vec{a}|} \vec{a}$

## 10 ベクトルの1次独立と分解

$\vec{0}$  でない2つのベクトル  $\vec{a}, \vec{b}$  が平行でないことを、 $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  は1次独立であるという。このとき、任意のベクトル  $\vec{p}$  は、実数  $k, l$  を用いて

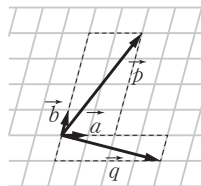
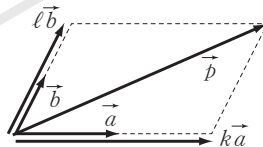
$\vec{p} = k\vec{a} + l\vec{b}$

とただ1通りに表せる。

例  $\vec{a}, \vec{b}, \vec{p}, \vec{q}$  が右図のように与えられているとき、 $\vec{p}, \vec{q}$  をそれぞれ  $\vec{a}, \vec{b}$  を用いて表すと

$\vec{p} = \text{⑥} \vec{a} + \text{⑦} \vec{b}$

$\vec{q} = \text{⑧} \vec{a} - \vec{b}$



↔  $\triangle OAB$  で、 $\vec{OA} = \vec{a}$ 、 $\vec{OB} = \vec{b}$  とするとき、 $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  は1次独立である。

↔ 右辺  $k\vec{a} + l\vec{b}$  をベクトルの1次結合の式という。

↔  $\vec{p}, \vec{q}$  が  $\vec{a}, \vec{b}$  と平行な辺をもつ平行四辺形の対角線となるように分解する。

解答

- ① -6   ② 9   ③ 4   ④ 4   ⑤  $\frac{1}{3}$    ⑥ 2   ⑦ 4   ⑧ 4

例題7 [ベクトルの演算] →8

次の問いに答えよ。

- (1)  $(5\vec{a}-\vec{b})-(2\vec{a}-4\vec{b})$  を計算せよ。  
 (2)  $3\vec{a}+4\vec{x}=2(\vec{x}-\vec{a})+6\vec{b}$  を満たす  $\vec{x}$  を  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  を用いて表せ。

解答

- (1)  $(5\vec{a}-\vec{b})-(2\vec{a}-4\vec{b})=(5-2)\vec{a}+(\text{1}+4)\vec{b}=3\vec{a}+\text{2}$   
 (2)  $3\vec{a}+4\vec{x}=2\vec{x}-\text{3}\vec{a}+\text{4}\vec{b}$  より  
 $2\vec{x}=\text{5}\vec{a}+\text{4}\vec{b}$  よって、 $\vec{x}=\text{6}$

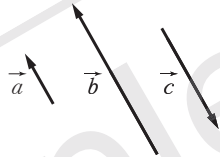
類題7 次の問いに答えよ。

- (1)  $3(2\vec{a}-\vec{b})-5(3\vec{a}+2\vec{b})$  を計算せよ。  
 (2)  $\vec{x}+2\vec{a}-3\vec{b}=2(\vec{x}-\vec{a})-(\vec{a}+2\vec{b})$  を満たす  $\vec{x}$  を  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  を用いて表せ。

例題8 [ベクトルの平行] →9

右図で、 $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$ ,  $\vec{c}$  は互いに平行で、 $|\vec{a}|=2$ ,  $|\vec{b}|=6$ ,  $|\vec{c}|=4$  であるとき、次の問いに答えよ。

- (1)  $\vec{b}$ ,  $\vec{c}$  をそれぞれ  $\vec{a}$  を用いて表せ。  
 (2)  $\vec{a}$  と平行な単位ベクトルを  $\vec{a}$  を用いて表せ。

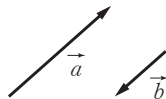


解答

- (1)  $\vec{b}$  は  $\vec{a}$  と同じ向きで大きさが3倍であるから、 $\vec{b}=\text{7}\vec{a}$   
 $\vec{c}$  は  $\vec{a}$  と反対の向きで大きさが2倍であるから、 $\vec{c}=\text{8}\vec{a}$   
 (2)  $|\vec{a}|=2$  なので、 $\vec{a}$  と平行な単位ベクトルは、 $\frac{1}{2}\vec{a}$  と  $\text{9}\vec{a}$

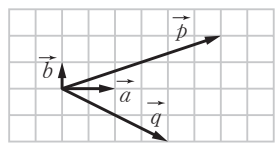
類題8 右図で、 $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  は平行で、 $|\vec{a}|=\frac{1}{3}$ ,  $|\vec{b}|=\frac{1}{6}$  であるとき、次の問いに答えよ。

- (1)  $\vec{b}$  を  $\vec{a}$  を用いて表せ。  
 (2)  $\vec{a}$  と同じ向きの単位ベクトルを  $\vec{a}$  を用いて表せ。



例題9 [ベクトルの1次独立と分解] →10

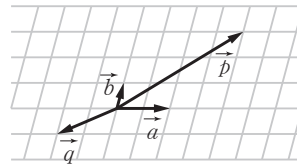
$\vec{a}$ ,  $\vec{b}$ ,  $\vec{p}$ ,  $\vec{q}$  が右図のように与えられているとき、 $\vec{p}$ ,  $\vec{q}$  をそれぞれ  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  を用いて表せ。



解答

$\vec{p}=\text{10}\vec{a}+\text{11}\vec{b}$   $\vec{q}=\text{12}\vec{a}-\text{13}\vec{b}$

類題9  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$ ,  $\vec{p}$ ,  $\vec{q}$  が右図のように与えられているとき、 $\vec{p}$ ,  $\vec{q}$  をそれぞれ  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  を用いて表せ。



↔ ベクトルの計算は多項式と同様に行う。  
 ↔  $x$  の1次方程式を解く要領で行う。

例題7の答

- 1 -1 2  $3\vec{b}$   
 3 2 4 6 5 -5  
 6  $-\frac{5}{2}\vec{a}+3\vec{b}$

↔  $\vec{a} \parallel \vec{b}$  のとき  $\vec{b}=k\vec{a}$  と表され、 $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  は  $k>0$  ならば同じ向きで、 $k<0$  ならば反対の向き。  
 $|\vec{b}|$  は  $|\vec{a}|$  の  $|k|$  倍。

例題8の答

- 7 3 8 -2  
 9  $-\frac{1}{2}$

↔  $\vec{p}$ ,  $\vec{q}$  がそれぞれ対角線となるような平行四辺形を考える。

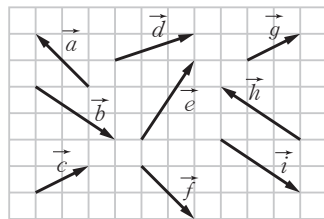
例題9の答

- 10 3 11 2 12 2  
 13 2

## >>> 確 認 問 題 <<<

1 右図のベクトルのうち、等しいベクトルの組をすべて答えよ。

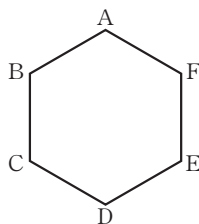
↔ 例題2



2 右図の正六角形ABCDEFにおいて、次のベクトルを1つのベクトルで表せ。

↔ 例題3

- (1)  $\overrightarrow{AC} + \overrightarrow{CE}$
- (2)  $\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{CE}$



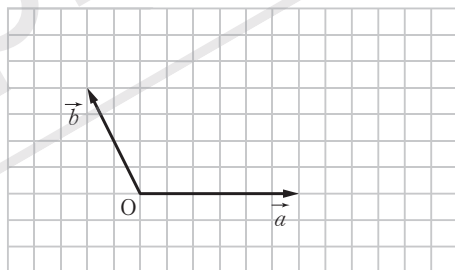
3 2の正六角形ABCDEFで、 $\overrightarrow{AB} = \vec{a}$ 、 $\overrightarrow{AE} = \vec{b}$ とすると、次のベクトルを $\vec{a}$ 、 $\vec{b}$ を用いて表せ。

↔ 例題5

- (1)  $\overrightarrow{DB}$
- (2)  $\overrightarrow{BE}$

4  $\vec{a}$ 、 $\vec{b}$ が右図のように与えられているとき、次のベクトルを点Oを始点として図示せよ。↔ 例題6

- (1)  $2\vec{a} + \vec{b}$
- (2)  $\frac{2}{3}\vec{a} - \frac{1}{2}\vec{b}$



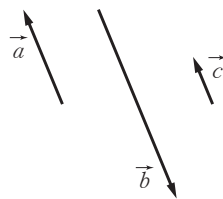
5 次の問いに答えよ。↔ 例題7

- (1)  $2(\vec{a} + 2\vec{b}) - 4(3\vec{a} - 2\vec{b})$  を計算せよ。
- (2)  $\frac{3}{2}(5\vec{a} - \vec{b}) - \frac{1}{3}(2\vec{a} + 3\vec{b})$  を計算せよ。
- (3)  $3\vec{a} - \vec{x} = 4\vec{x} + 2\vec{a} - 3\vec{b}$  を満たす $\vec{x}$ を $\vec{a}$ 、 $\vec{b}$ を用いて表せ。

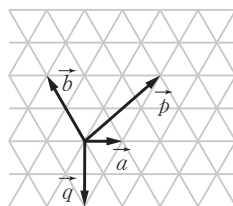
6 右図で、 $\vec{a}$ 、 $\vec{b}$ 、 $\vec{c}$ は互いに平行で、 $|\vec{a}| = 3$ 、 $|\vec{b}| = 6$ 、 $|\vec{c}| = \frac{3}{2}$ であるとき、次の

問いに答えよ。↔ 例題8

- (1)  $\vec{b}$ 、 $\vec{c}$ をそれぞれ $\vec{a}$ を用いて表せ。
- (2)  $\vec{a}$ と反対の向きの単位ベクトルを $\vec{a}$ を用いて表せ。



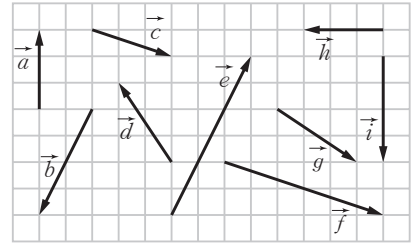
7  $\vec{a}$ 、 $\vec{b}$ 、 $\vec{p}$ 、 $\vec{q}$ が右図のように与えられているとき、 $\vec{p}$ 、 $\vec{q}$ をそれぞれ $\vec{a}$ 、 $\vec{b}$ を用いて表せ。↔ 例題9



# 基本問題

1 右図において、次の条件を満たすベクトルの組をすべて答えよ。

- (1) 互いに平行なベクトルの組
- (2) 大きさが等しいベクトルの組



2 次の等式が成り立つことを証明せよ。

- (1)  $\vec{AB} + \vec{BC} + \vec{CD} + \vec{DA} = \vec{0}$
- (2)  $\vec{AB} + \vec{CD} = \vec{AD} + \vec{CB}$

3  $\vec{x} = 2\vec{a} + 3\vec{b}$ ,  $\vec{y} = 3\vec{a} - \vec{b}$  のとき、次のベクトルを  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  を用いて表せ。

- (1)  $2\vec{x} - 5\vec{y}$
- (2)  $\frac{1}{3}(\vec{x} + \vec{y}) - \frac{1}{4}(\vec{x} - 2\vec{y})$

4 次の等式を満たす  $\vec{x}$ ,  $\vec{y}$  を  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  を用いて表せ。

- (1) 
$$\begin{cases} \vec{x} + 2\vec{y} = -\vec{a} \\ \vec{x} - 2\vec{y} = 5\vec{a} \end{cases}$$
- (2) 
$$\begin{cases} \vec{x} + 3\vec{y} = \vec{a} - 2\vec{b} \\ 2\vec{x} - \vec{y} = 3\vec{b} \end{cases}$$





## 応用問題

1 四角形ABCDにおいて、 $\overrightarrow{AB}=\overrightarrow{DC}$ ならば、四角形ABCDはどのような四角形か。

2 1辺の長さが2で、 $\angle AOC=60^\circ$ のひし形OABCにおいて、 $\overrightarrow{OA}=\vec{a}$ 、 $\overrightarrow{OC}=\vec{c}$ とするとき、 $\overrightarrow{OB}$ と同じ向きの単位ベクトルを $\vec{a}$ 、 $\vec{c}$ を用いて表せ。

3 正六角形ABCDEFにおいて、 $\overrightarrow{AB}=\vec{a}$ 、 $\overrightarrow{BC}=\vec{b}$ とするとき、次のベクトルを $\vec{a}$ 、 $\vec{b}$ を用いて表せ。

- (1)  $\overrightarrow{AF}$
- (2)  $\overrightarrow{AE}$
- (3)  $\overrightarrow{CE}$

4 右図の台形ABCDにおいて、 $AB=4$ 、 $CD=3$ 、 $\overrightarrow{CM}=\frac{2}{3}\overrightarrow{CD}$ を満たす点をM、辺BCの中点をNとする。 $\overrightarrow{AB}=\vec{a}$ 、 $\overrightarrow{AD}=\vec{b}$ とするとき、次のベクトルを $\vec{a}$ 、 $\vec{b}$ を用いて表せ。

- (1)  $\overrightarrow{DM}$
- (2)  $\overrightarrow{BC}$
- (3)  $\overrightarrow{AM}+\overrightarrow{DN}$

